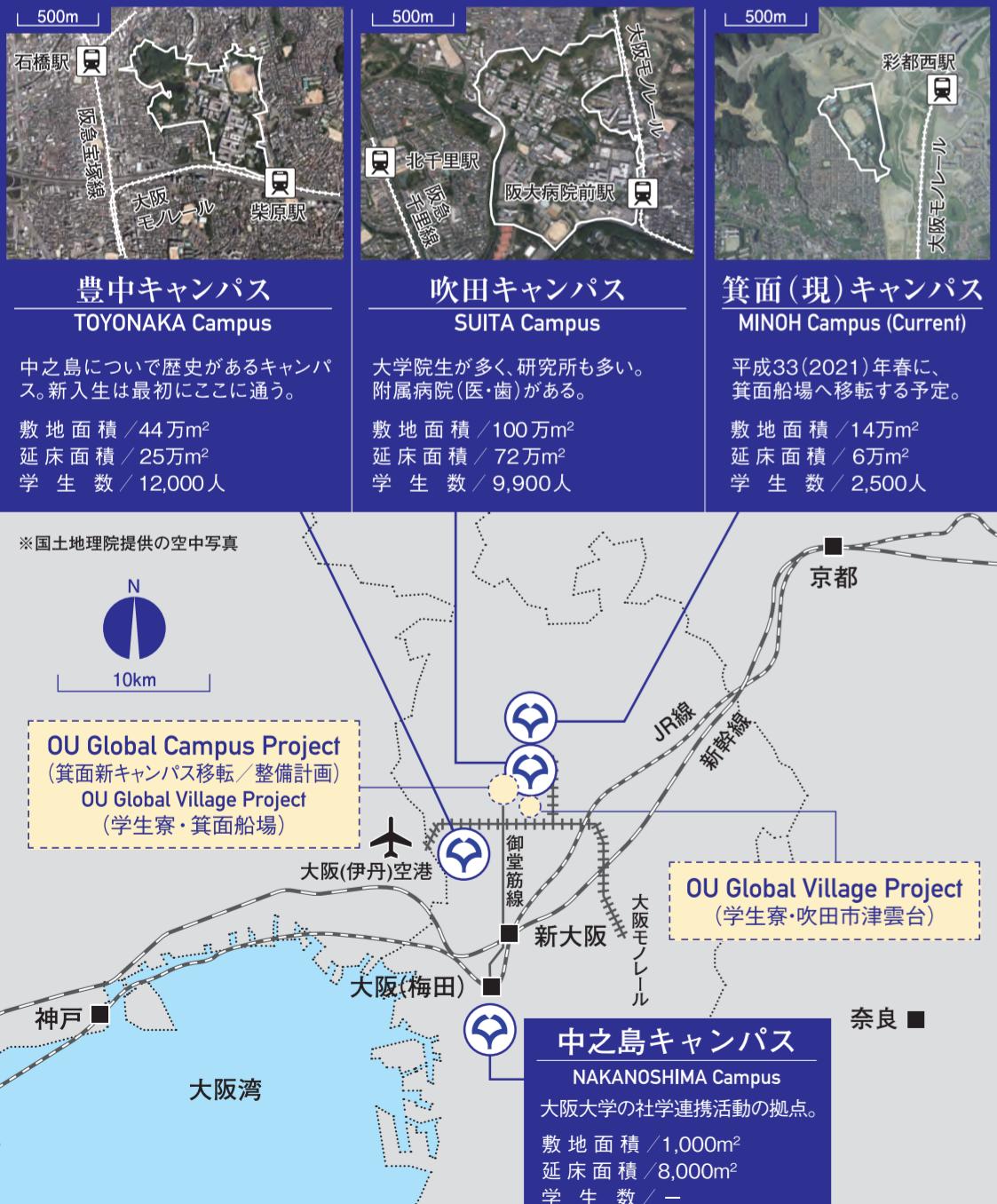




大阪大学のキャンパス計画 これまでの取り組みと将来像

2018.6



リーディングプロジェクト(主なもの)

キャンパスマスタークリエイティブプランや関連指針等で検討された、特に共用性が高い場所の優先的な整備構想を、リーディングプロジェクトと呼んでいます。活動実態、財源、民間事業者の意向などに柔軟に対応しながら、実現に努めています。

豊中キャンパス

TOYONAKA Campus



吹田キャンパス

SUITA Campus

キャンパスマスタークリエイティブプラン2016ほかより



T-1 ★ 豊中のキャンパスライフを快適に

食生活の充実を大きな目標として、昼食時の混雑解消やキャンパス東西のバランス改善をすすめながら、学外のお客様もご案内できるようなレストランの誘致も検討します。



T-1A

学生交流棟(旧:食堂「宙(そら)」を含む)改修

キャンパス全体の食堂混雑緩和をはかり(1F)、交流/居場所スペースと学生の相談機能を充実させます(2F)。

T-1B

キャンパス東側へのカフェ・レストラン等の誘致

食堂のキャンパス東西のバランス改善をめざします。



T-1C

プレハブ食堂(DonDon)跡地の屋台村形成

学生交流棟を改修(T-1A)した後にプレハブ食堂を廃止して、跡地を屋台村として運営することを検討しています。



各エリアの概略方針

これらのエリアでは、学生教職員の活動や近隣の方々との協力、企業との連携を、目に見えるかたち(景観・ランドスケープ)につなげることで美しくしていきます。

T-2 メインストリートや広場の整備(シンボル空間の形成)

T-3 博物館と待兼山周辺の整備

T-4 柴原通り周辺の空間再編

T-8 課外活動施設の更新と再編

T-8A フィットネス施設の誘致

民間事業者によるフィットネス施設(プールを含む)を誘致し、福利厚生や課外活動を充実させる構想です。阪大坂下(宿舎跡地)が主な候補地です。



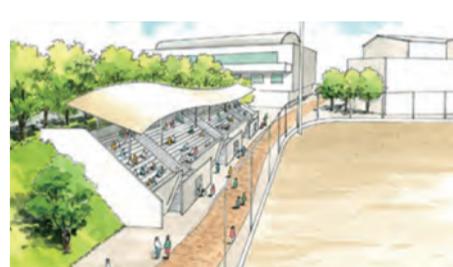
T-8B 第三体育館

課外活動と体育授業の両面で不足している体育館を増設する構想です。老朽化したプールを取り壊してその跡地を主な候補地としてすることや、部室や合宿所を合築することを検討しています。



T-8C グラウンド観覧席・駐輪場・部室等の合築

課外活動の諸団体の交流を促進し、駐輪場・部室等も合築する構想です。



T-9 阪急石橋駅からの通学経路の改善

学生が集中する通学経路について、駅前まで含めた地域の発展に併せて改善していくことを、地域社会に働きかけていきたいと考えています。

中之島キャンパス

NAKANOSHIMA Campus, "AGORA"

大阪帝国大学発祥の地であり、現在は中之島センターが立地し社学連携活動の拠点となっています。都市型キャンパスの新たなかたちとして、周辺地域の文化・芸術の発展に貢献することが期待されています。

箕面新キャンパス

OU Global Campus

現箕面キャンパスの外国語学部と日本語日本文化教育センターが中心となって移転します。交通がとても便利になり、大阪大学の主要キャンパスの中心、そして交流や活動の中心となります。



- 文化と言語の多様性を活かし周辺市街地と協調してともに発展する「グローカルキャンパス」※1
- 地球と人に優しい未来志向の「サステナブルキャンパス」
- 文理融合の新しい産官民連携を実現する「スマートキャンパス」



箕面新キャンパスを北側からみる。
左側はOUGlobalVillage(学生寮)。

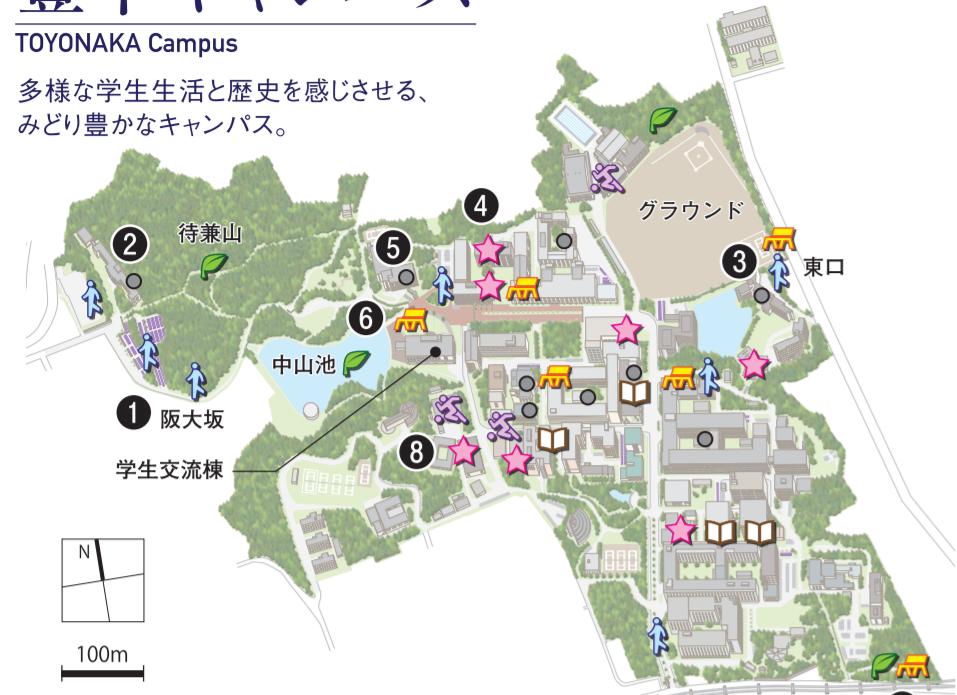
大学側から市の文化施設(南側)を見る(完成予想図)※2

市の文化施設を西側から見下ろす(完成予想図)。左奥が大学。※2

豊中キャンパス

TOYONAKA Campus

多様な学生生活と歴史を感じさせる、
みどり豊かなキャンパス。



①阪大坂の美観向上

放置駐輪とコンクリート埠が目立っていた阪大坂を美しくしました。



②待兼山修学館(旧医療技術短大本館)

●2007年

歴史ある建物を総合学術博物館に改修しました。2008年に登録有形文化財に指定されました。



③東口環境整備

2009年
第19回 緑のデザイン賞「緑化大賞」2009
狭く危険であった東口の安全性と美観を大幅に向上させました。



④全学教育総合棟Ⅰ改修

★2009年

学生の提案を元にして、外壁を取り払い、中庭とつながる空間(コモンズ・カルティエ)として再生しました。

⑤大阪大学会館(旧イ号館)改修

●2011年

ベルカ賞 ベストリフォーム部門 2014
もっとも歴史のある建物を改修し、中山池や広場と調和したシンボル的な建物として再生しました。



⑥80周年記念広場・中山池親水空間

★2012年

第7回 豊中市都市デザイン賞 2012
池のほとりをシンボル広場として再生し、池を一周する遊歩道等も設けました。



⑦柴原口環境整備

★2012年

閉鎖的な裏門だった場所を、モノレール駅からの歩行者路にふさわしい門としました。



⑧豊中福利会館改修

★2013年

耐震改修に併せて、食堂と購買機能を大幅に改善し、美観も向上させました。



吹田キャンパス

SUITA Campus

広域の緑地とつながり、近代的・現代的なデザインが中心となるキャンパス。



箕面キャンパス

MINOH Campus

2021年春、箕面船場地区へ移転予定

みどりが豊かで眺望が良く、地域との交流が盛んなキャンパス。



①外国学図書館改修・コモンズ設置

★2012年

旧来の自習室を改修して、学修空間(コモンズ)として再生しました。



②箕面福利会館2F談話室設置

★2014年

混雑するバス停に上屋を増設しました。



③バス停上屋増設設置

●2011年、2013年

混雑するバス停に上屋を増設しました。



④A棟コモンズ「ちかだん」設置

★2014年

建物内にコモンズを設置しました。

キャンパスの建て詰まりと 将来の建て替え更新の考え方(豊中・吹田)

1960～70年代に建設された建物が多いため、これらの寿命を延ばしながら使っていくとともに、将来、建物を集約しながら更新していく方向性も考えていきます。

豊中キャンパス

航空法によって豊中キャンパスの建物高さは、ある一定レベルに抑えられています。建物群の老朽化の進行に備えて、柴原口の周辺を中心に再開発していく計画が求められます。

豊中キャンパスの航空写真



吹田キャンパス

将来の病院再開発をはじめとする長期的な建て替えを想定しつつ、キャンパス外周の緑地・山林を保全するなどの、周辺との調和や環境を維持向上させる考え方を示す「地区計画」(都市計画の制度の一つ)について、行政との協議を続けています。



大阪大学キャンパスの歴史

1724年	「懷德堂」創設
1838年	「適塾」創設
1931年	「大阪帝国大学」創設
1960年	豊中キャンパスへ移転開始
1966年	吹田キャンパスへ移転開始
1979年	大阪外国语大学が箕面市栗生間谷に移転
1993年	医学部附属病院が中之島から吹田キャンパスへ移転
2007年	大阪大学と大阪外国语大学が統合し、大阪外国语大学のキャンパスが大阪大学箕面キャンパスとなる
2021年	大阪大学創立90周年、大阪外国语大学創立100周年

大阪大学キャンスマスタートップランの特徴

キャンパス全体の空間構成のあり方を示しながら、時代の変化に対応していくという、柔軟なスタイルをとっています。
2005年の作成後も、調査や関連する指針づくりなどにより改訂を繰り返しながら、特に共用施設や共用外部空間(キャンパスコモン)に関して多くの提案を盛り込んでいます。

各種の調査検討から導かれた課題

キャンパスの個別的課題は、概ね下記のように大別されます。
これらの一部はリーディングプロジェクトとして、短期～中期的な改善を図っています。その他にも毎年少しずつ改善を続けています。

空間の豊かさ	サイン・案内類のわかりやすさや 多文化・多言語への対応
シンボル性やイメージ	福利施設や課外活動施設
福利施設や課外活動施設	建物の維持管理全般
交通安全やバリアフリー	樹木や屋外空間の維持管理
防犯対策	通勤・通学の利便性

キャンパスごとの重点的な取り組み

各種の調査・検討を元にして、マスターplanや関連指針等では、キャンパスごとに下記のような考え方を示しています。

豊中キャンパス

おもて面で示した
代表的計画の番号

- (1) 食堂の東西アンバランスとピーク時混雑の改善 T-1
- (2) 体育・課外活動施設等の老朽化や高密状態の改善 T-8
- (3) 自転車やバス停を中心とする交通環境の改善 T-6
- (4) 待兼山などの広大な里山を使いこなしながら
ランドスケープ(自然の景観など)を改善していくこと T-3
- (5) 高密な建物群の長期的な更新・集約化方針検討 T-4

吹田キャンパス

おもて面で示した
代表的計画の番号

- (1) 交通環境の改善 (自家用車利用の抑制を含めて) S-3, S-6
- (2) 緑地環境を中心とするランドスケープの改善 S-3, S-9
- (3) 課外活動施設の老朽化や豊中地区の過密状態改善に
つながる計画 S-9, S-16
- (4) 附属病院をはじめとする建物群の長期的更新計画 S-14, S-16
- (5) 食生活環境の改善 (多様性や選択性の向上) S-3, S-8, S-9

箕面キャンパス(新キャンパスの考え方)

旧大阪外国语大学の伝統を受け継ぎながら、箕面市・民間事業者・民間地権者や周辺コミュニティ等とも連携して設計が進められています。
2021年春の移転開学を目指して設計中です。

→OU Global Campus(おもて面参照)

中長期的には…

省エネ・省資源はもちろん、災害への対策なども含めて、キャンパスの持続可能性を高めています。
その中で、地域社会との連携強化は重要な課題です。
学生・教職員や卒業生・企業・近隣にお住いの方々にキャンパスのことを知ってもらいたいながら、散策の空間やスポーツの空間として、あるいは教育や研究の面で、ともにキャンパスを使いながらキャンパスを良くしていく取り組みと、その仕組みづくりを続けています。
土地・建物を最大限に有効活用する仕組みづくりや、緑のフレームワークプラン(緑地等の計画・指針)改訂などを通じて、これまで以上に「使いこなししながら良くしていく」考え方を取り入れていきます。